

I (行くぞ！)

C (チャンスだ！！)

T (楽しく学ぼう i Pad !!!)

～実態に応じた i Pad 活用術～

三重県立輝き特別支援学校 草の実分校

NPO法人支援機器普及促進協会

専門主事 高松 崇

A Credo for Support 支えの信条

歴史を通じて、

自己紹介

主な活動と経歴

●本年度

京都市教育委員会 総合育成支援課 専門主事

京都府 特別支援教育京都府専門家チーム（宇治支援学校SSC）

NPO 支援機器普及促進協会 理事長

●昨年度以前

京都市 吳竹総合支援学校・東総合支援学校 特別非常勤講師

京都市 携帯電話市民インストラクター

京都市 ICT活用支援員（総合支援学校ICTコーディネーター）

京都市 総合育成支援員（発達障害児支援）

京都市 精神障害者授産施設 京都市朱雀工房 統括職業生活支援員

京都市 地域若者サポーター（引きこもり支援）

京都府教育委員会 社会教育委員

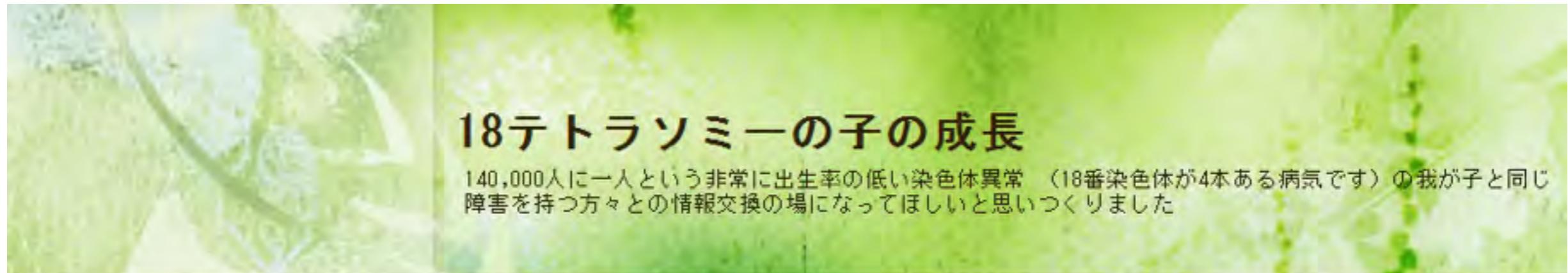
京都府高等技術専門校 在職者訓練インストラクター

中小企業基盤整備機構 経営改善アドバイザー

私も、京都府立向日が丘支援学校 中学部2年生の三男があります

18番テトラソミー

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりました



❶ プロフィール

プロフィール | なう | ピグの部屋

ニックネーム: memis18

性別: たかちゃん

自己紹介:
18番テトラソミーと生まれ育った普通の男の子

2014-12-27 13:54:33
テーマ: 成長記録

12月7日にはお母さんと一緒に
SL北びわこ号（米原から木ノ本）にも乗ってきました
梅小路機関車館のSLとは違い、40分の自然の中を走ったそうです

A photograph showing two children standing in front of a black steam locomotive. One child is holding a colorful sign that reads "SL 北びわこ号" and "2014年12月7日". The locomotive has "SL 北びわこ号" and "2014年12月7日" written on its side.



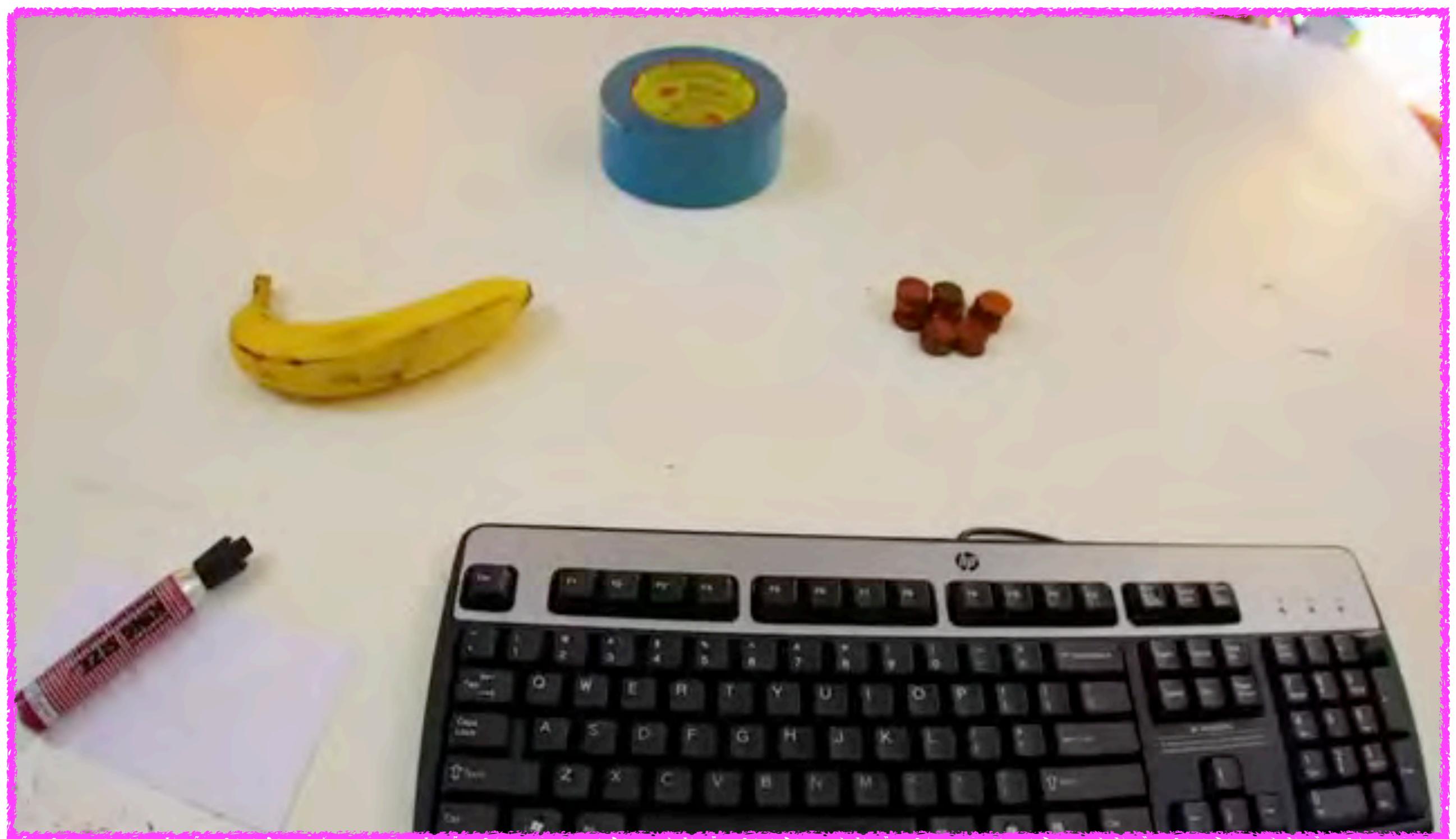
- 10:00～11:00 講義
- 11:00～12:00 草の実の児童生徒に
合わせた活用術
- 12:00～13:00 昼休憩＆相談タイム
- 13:00～15:00 実習

QOLを支えるICT技術（AT）

MaBeee



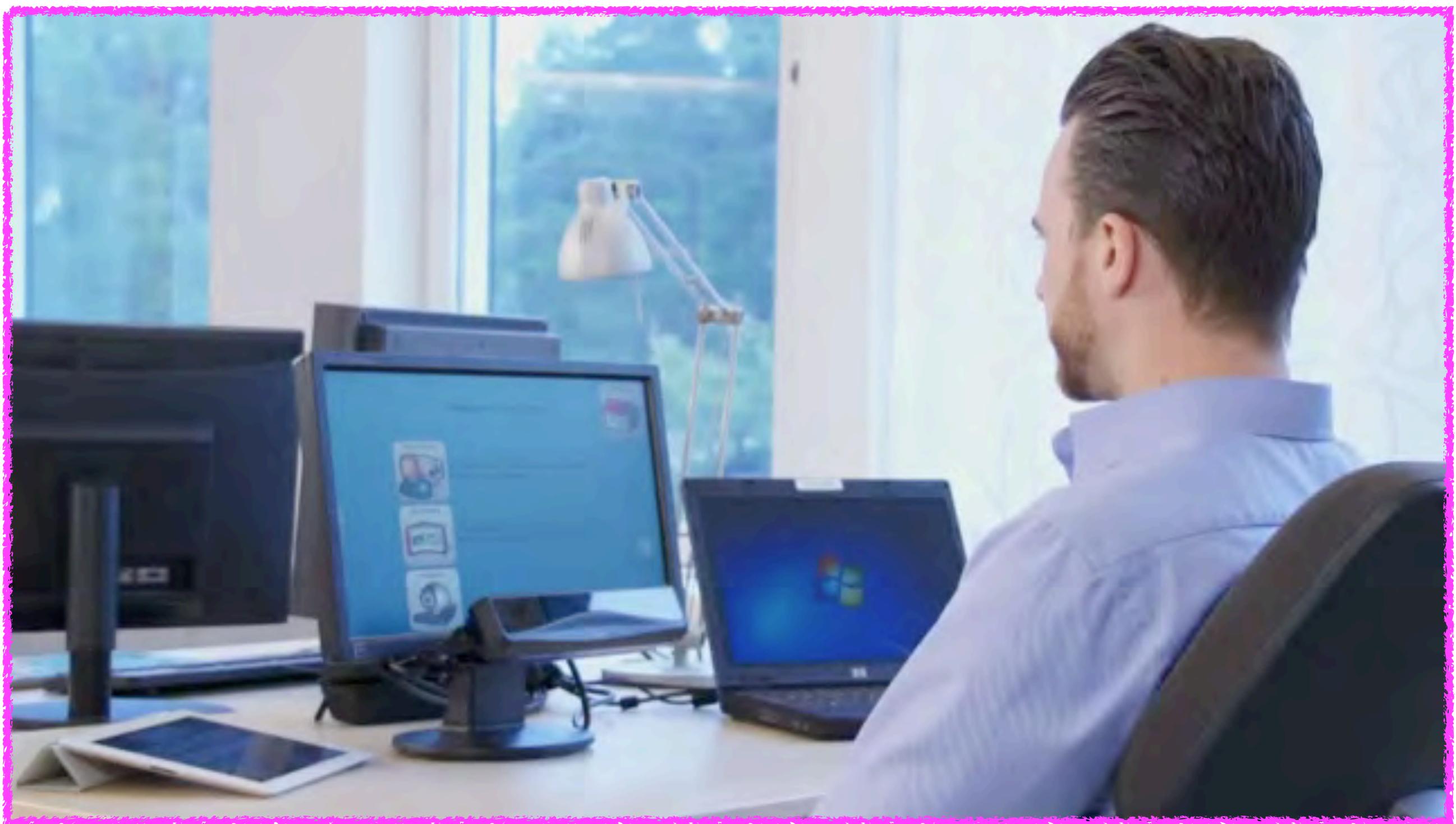
MaKey MaKey



Mogees - Play the World (Japanese)



Tobii PCEye



Eyedrivomatic for Hackaday Prize

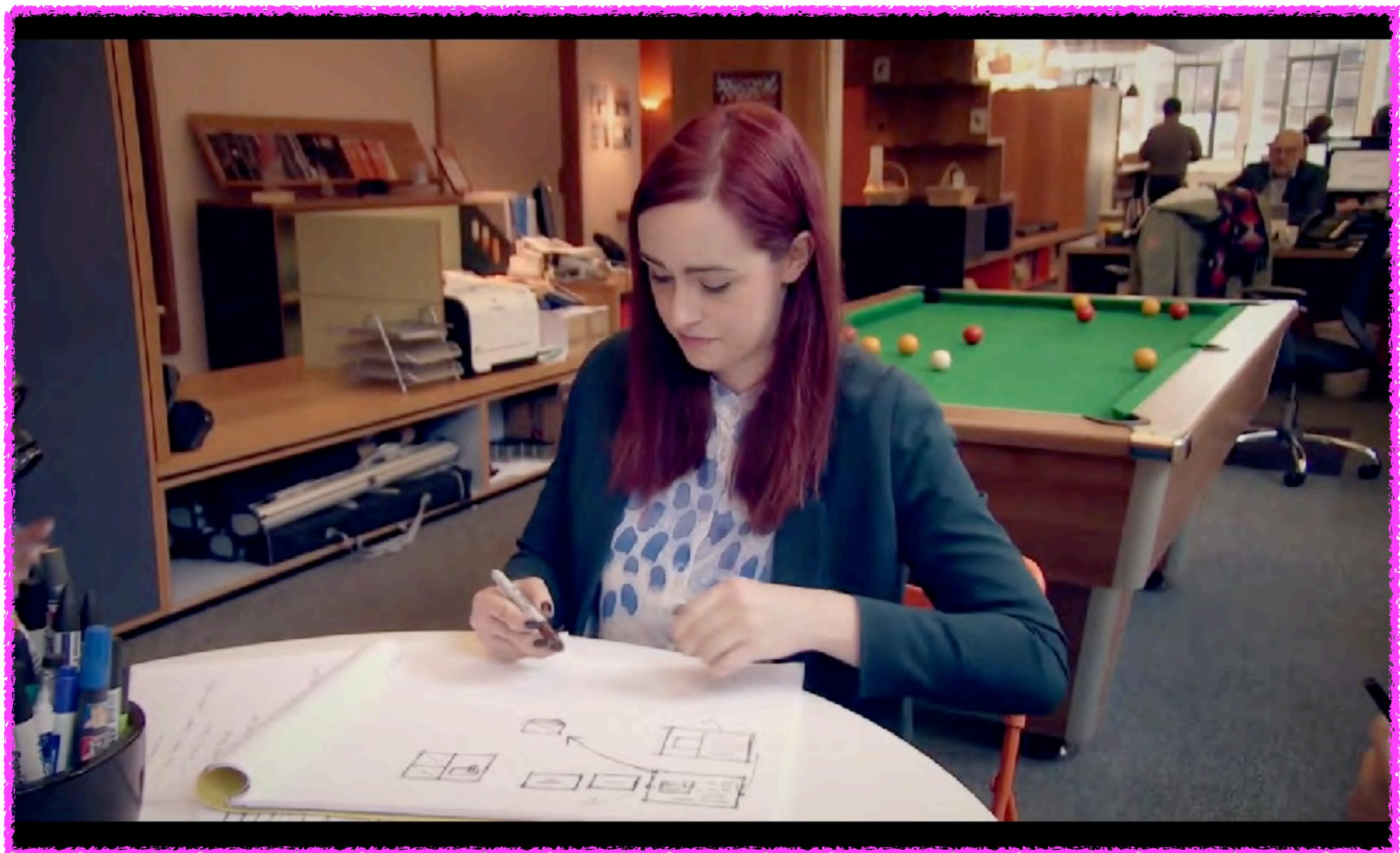


スマホで家電をコントロール！eRemote-3 RM-Pro



リモコンの信号を学習して同じ信号を出す

Build 2017- Project Emma



Emotiv Insight - A brain activity tracker



発達段階

発達初期における主要な発達の側面の流れ

北九州市立大学文学部紀要

(人間関係学科)

第 21 卷

学習到達度チェックリストの「発達段階の意義」に関する一検討 – その理論的・実践的役割に着目して – 田中 信利

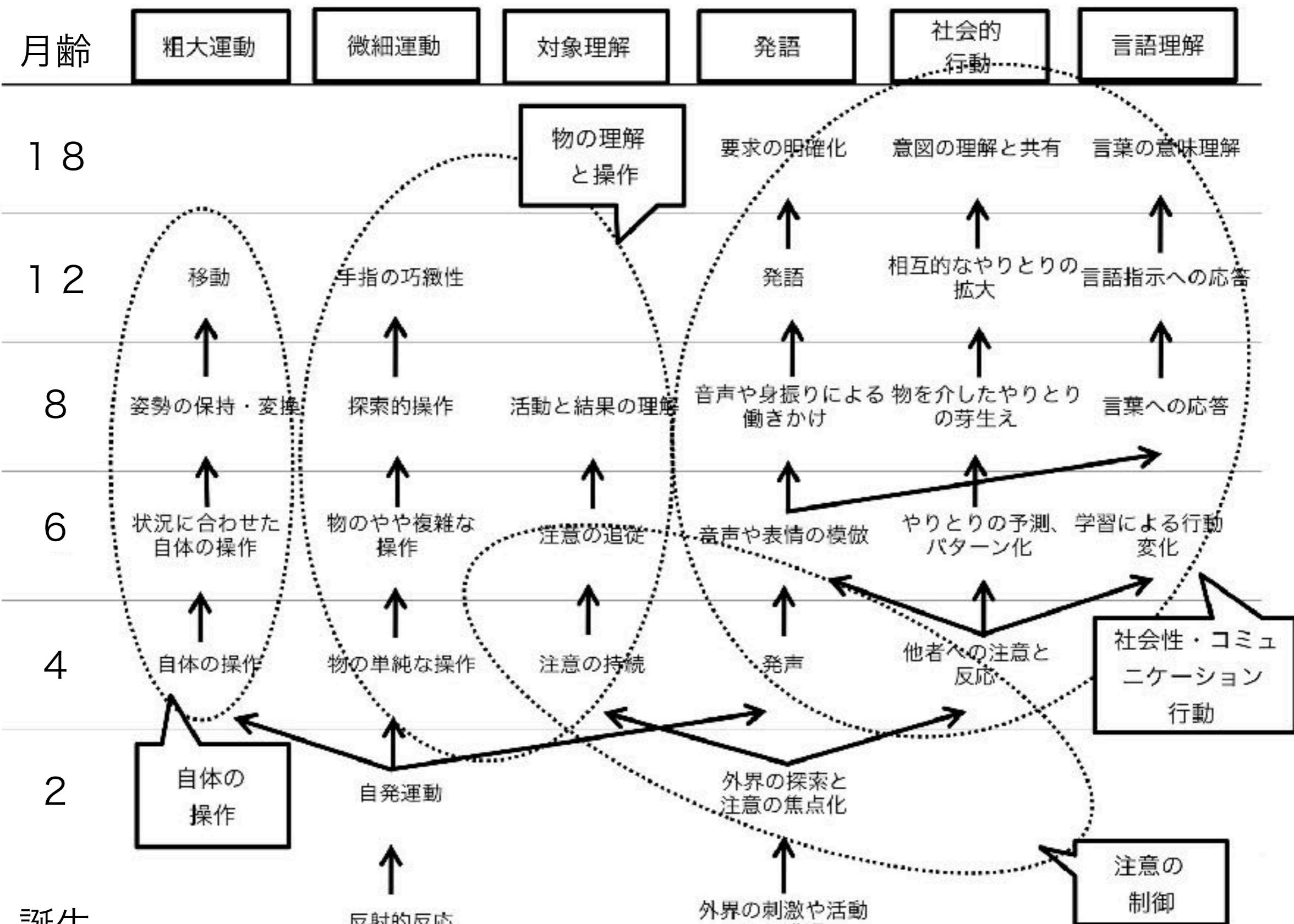


図1 段階意義の系統図

Point

肢体不自由児・重心障害児

へのiPad活用のポイント

アプリケーションよりも

周辺機器・アクセシビリティ

タブレット端末を使う必然性はあるのか？

既存の支援と比較しないと必然性はわからない
(=いろいろな手段の選択肢を持つ)

ねらいを明確に

指導は柔軟に

機材はシンプルに

子どもたちに、させたい事ではなく
子どもたちが、したい事！

おもちゃと遊びの支援技術（AT）

- コミュニケーションの原点を考えていくと、子どもにとって遊びの場面がとても重要であることが分かります。他者との共感や共有の関係性、模倣やイメージ力の発展、人と物と人との三項関係など、コミュニケーションの基礎的な課題が遊びの場面にたくさん存在しています。
- しかし、重度の障がいのある子どもは、自分から主体的に他の子どもたちと関わって遊ぶような場面がありません。
- そこで、これまで培われてきた多様な支援技術を生かし、ハイテク機器の代わりにおもちゃをつなぐことで、重度障がい児の遊びの場面を拡大、充実させることを試みます。どんなに障がいの重い子どもでも、楽しく遊べるようになれば興味は広がり、みんなの仲間に入って活動できるようになれば、自然にコミュニケーションの力も発達していくはずです。

自立とは・・・

自立は、依存先を増やすこと

熊谷晋一郎さん（くまがやしんいちろう）

小児科医／東京大学先端科学技術研究センター・特任講師
1977年、山口県生まれ。

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存でき正在、障害者は限られたものにしか依存できない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存していないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れているわけです。

Technology

の先に何が……



参考図書

決定版! 特別支援教育の ためのタブレット活用

今さら聞けないタブレットPC入門

編著者 金森 克浩

執筆 新谷 洋介／氏間 和仁
小川 徳史／高松 崇



ジース教育新社

知的障害特別支援学校の ICT を活用した 授業づくり

監修
金森 克浩

編著
全国特別支援学校知的障害教育校長会

ジース教育新社

重度障害者用
意思伝達装置
操作スイッチ
適合マニュアル



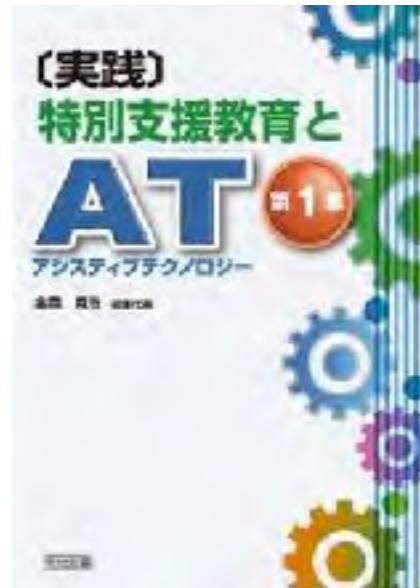
日向野和夫
田中義之郎



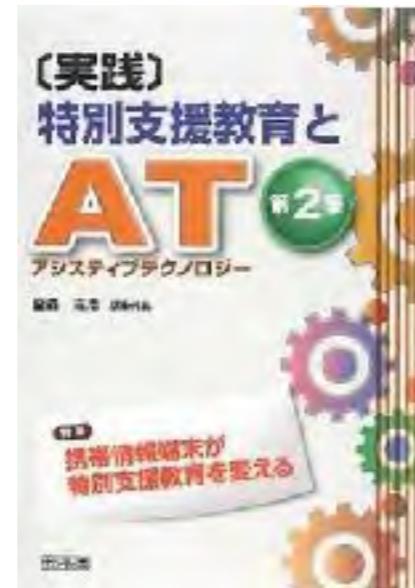
三省堂書店

特別支援教育とAT(アシスティブテクノロジー)

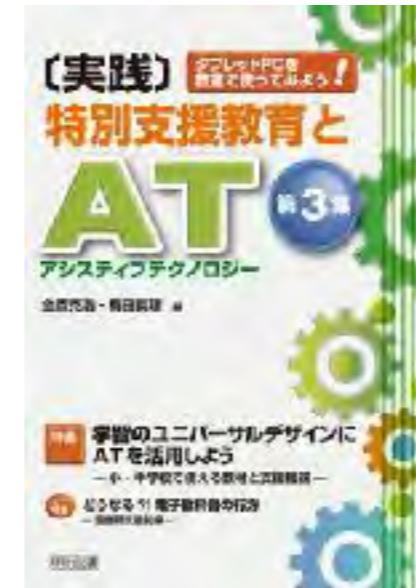
国立特別支援教育総合研究所 金森 克浩



「概論・入門編」



「特別支援教育」



「学習のUD」



「合理的配慮」

各号のキーワード



「視覚支援」



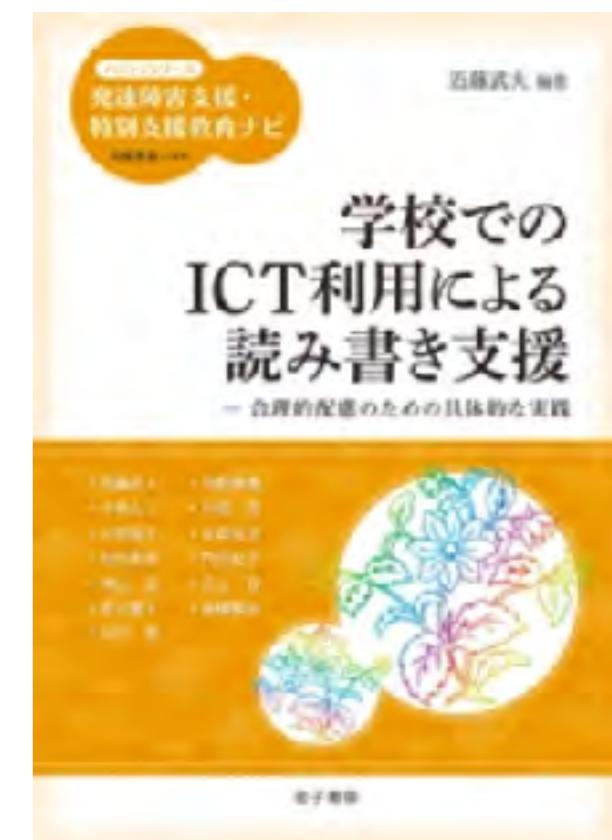
「AAC再入門」



「知的障害」

東京大学先端科学技術研究センター

中邑 賢龍



魔法プロジェクト

研究成果



あきちゃんの魔法の
ポケット

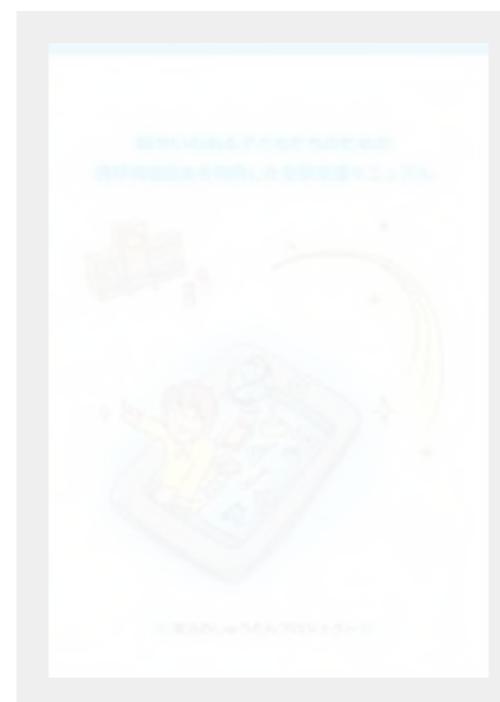


魔法のふでばこ

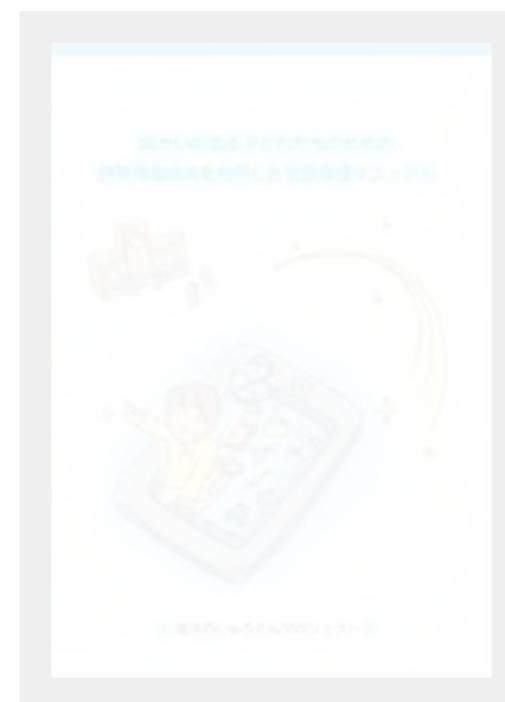


魔法のじゅうたん

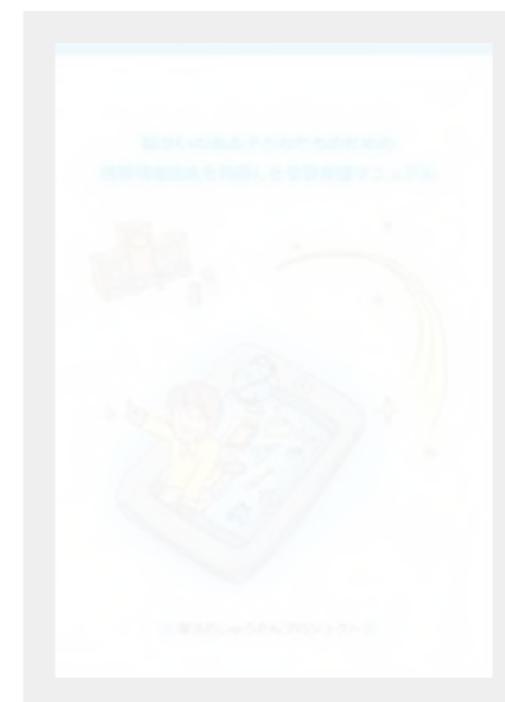
東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループは、携帯電話・スマートフォン等の情報端末の活用が障害を持つ子どもたちの生活や学習支援に役立つことを目指し2009年6月から「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」をスタートしました。



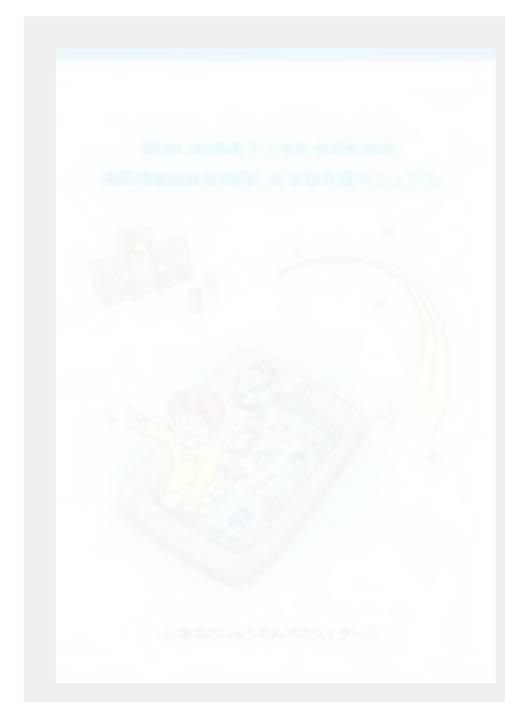
魔法のランプ



魔法のワンド



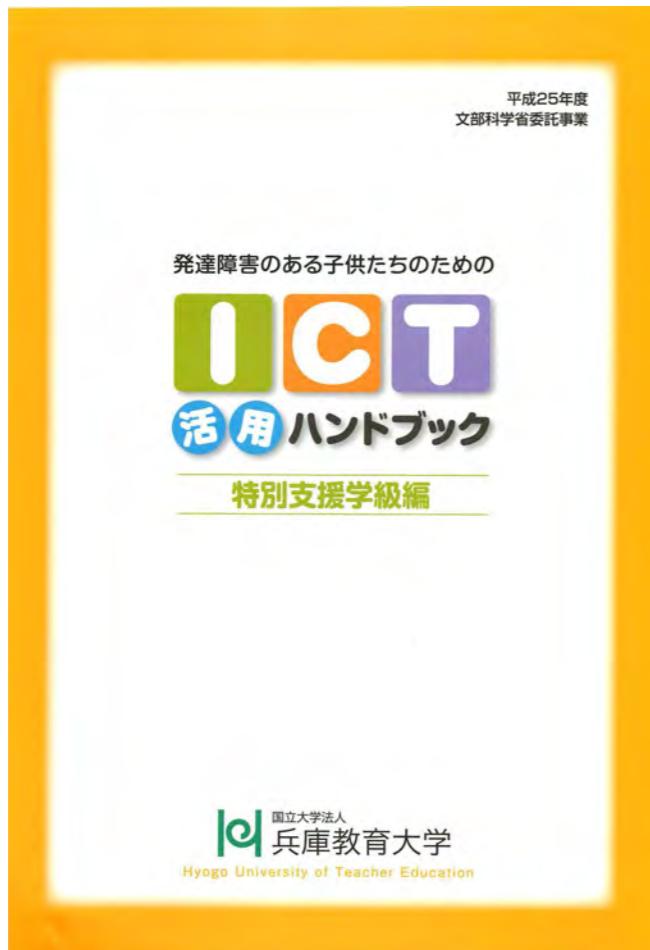
魔法の宿題



魔法の種

文部科学省

発達障害のある子どもたちのための ICT活用ハンドブック



特別支援学級編



通常の学級編



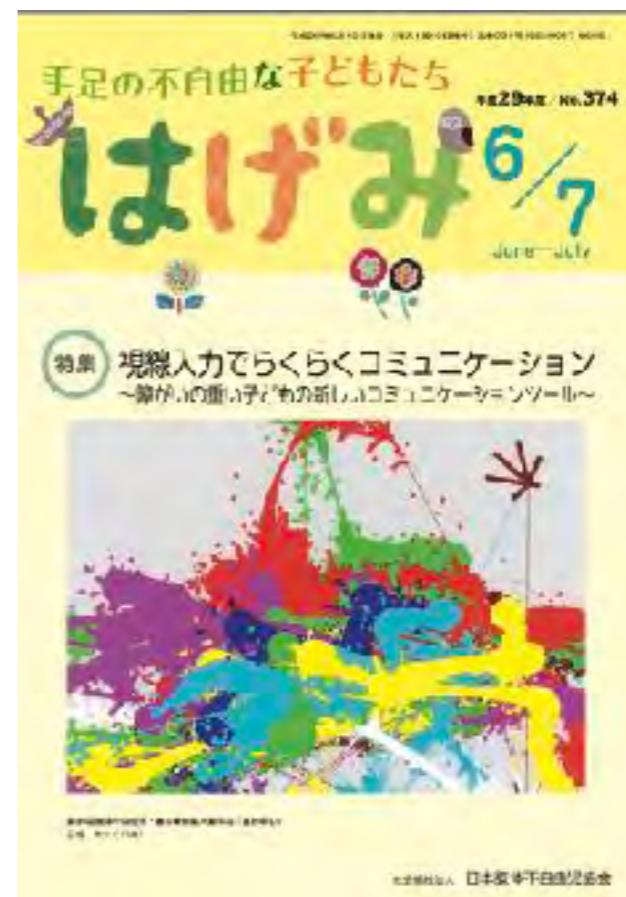
通級指導教室編

香川大学教授

坂井 聰



日本肢体不自由児協会





ATDS

Assistive Technology Dissemination Society

NPO法人支援機器普及促進協会

<http://npo-atds.org>